

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月18日更新

事務事業名		適応指導教室事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	安武 祐次
	施策	20	義務教育の充実			所属課	学校教育課	担当者名	二瀬 義継
	基本事業	61	徳育の推進			所属班	学務指導班	(内線)	2224
予算科目	会計一般	款 10	項 1	目 3	事業連番 10647	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑧ コスト削減優先度評価結果 : ⑥		
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 26年度で終了 <input type="checkbox"/> 26年度から開始		事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)					

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	不登校または、その傾向の状態にある児童生徒の学校復帰を目指す。 【事業の内容】 不登校やいじめ等に係る相談指導業務として、適応指導員3名を任用し、電話での相談などを行うとともに、不登校状態にある子どもの学校復帰を目指し3つの適応指導教室を開設し指導にあたる。
【業務の流れ】	適応指導員の任用事務、勤務日数確認、報酬支払、勤務日誌管理
【主な予算費目】	報酬、報償費、旅費、需用費、役務費、備品購入費
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	なし

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
①手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動)(DO)	27年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
不登校やいじめ等に係る相談指導業務として、適応指導員3名を任用し、電話での相談などを行うとともに、不登校状態にある子どもの学校復帰を目指し3つの適応指導教室を開設し指導にあたる。	事業全般としては、今年度と同様に実施する。(今年度より作業療法士との連携を行ない、自尊感情が低くなりがちの不登校の児童生徒が簡単な作業を通じて、達成感を味わい、人とのコミュニケーションを取ることができるようにすることを期待して、適応指導教室に通う児童生徒を中心に、継続した体験活動を計画・実施している。)
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 適応指導員数	人 事務効率を上げるためのパソコン購入に伴う備品購入費の増
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位) ②対象指標(対象の大きさを表す指標)
不登校状態にある児童生徒	→ ア: 不登校状態にある児童生徒数 人
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位) ③成果指標(意図の達成度を表す指標)
不登校状態にある児童生徒の学校復帰を目指す。	→ ア: 適応指導教室に通えるようになった児童生徒数 人 イ: 保健室登校等学校へ復帰することができるようになった児童生徒数 人
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠	
不登校ぎみの児童生徒は年々増加傾向にあり、不登校となった原因は様々で対象児と信頼関係を築き、まずは家庭から外へ出ることを促し、適応指導教室へ通えるまでにも容易なことではない。適応指導員が教職員と保護者と根気強く連携し、対象児の気持ちをくみ取り適応指導教室通級を学校登校の手がかりとして、早急な学級復帰は困難でも、保健室等別室登校ができれば、この事業は成功といえると思われる。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2)各指標・総事業費の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込	
① 活動指標	ア	人	3	3	3	3	3	3	3	3	
	イ										
	合計										
② 対象指標	ア	人	33	37	55	53	55	55	55	55	
	イ										
	合計										
③ 成果指標	ア	人	15	11	11	12	11	11	11	11	
	イ	人	11	2	11	9	11	11	11	11	
	合計										
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	一 般 財 源	一般財源	千円	5,925	5,969	6,203	5,981	6,462	6,017	6,017	6,017
		(A) 事業費計	千円	5,925	5,969	6,203	5,981	6,462	6,017	6,017	6,017
		(A)のうち指定経費	千円	5,760	5,760	5,760	5,760	5,760	5,760	5,760	5,760
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		人件費	人	4	5	5	0	5	5	5	5
(B) 人件費計	延べ業務時間	時間	380	390	300	0	300	300	300	300	
	(B) 人件費計	千円	1,546	1,553	1,195	0	1,195	1,195	1,195	1,195	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,471	7,522	7,398	5,981	7,657	7,212	7,212	7,212	

事務事業名	適応指導教室事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	----------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は26年度の後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 不登校ぎみの児童生徒は年々増加傾向にあるが、今年度から適応指導員の他に特別支援教育の観点からスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談員等による学校・家庭への相談や助言支援を実施し、更に作業療法士とも連携し、自尊感情が低くなりがち那不登校の児童生徒が簡単な作業を通して、達成感を味わい、人とのコミュニケーションを取ることができるような活動を実施を計画しているため、目標は達成できると見込んでいる。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 適応指導教室は研修施設や公民館等の施設を借りて開設しており、休館日等で利用制限を受けることがある。適切な開設場所があれば向上余地がある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 不登校の解決のためには、対象児と保護者と学校との連携と信頼関係が不可欠であるため、現在のやり方他に手段はないと考える。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 非常勤職員を任用して実施しており削減できない。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 適応指導員の任用事務等必要最低限の時間であり削減余地はない。適応指導員は非常勤職員である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 学校に登校できない児童生徒に対しての事業であり、教育の機会均等を実現させるために必要な事業であり、受益者負担という観点からは公平・公正である。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 不登校の解決のためには、対象児と保護者と学校との連携と信頼関係が不可欠であるため、現在のやり方が適正と考える。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

不登校及び傾向の原因は様々で、その解決のためには保護者、学校の教職員と適応指導員の連携は必要不可欠である。特別支援教育の観点からの助言や支援が必要な対象児については、さらにスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・教育相談員と連携していく必要がある。自尊感情が低くなりがち那不登校の児童生徒が簡単な作業を通じて、達成感を味わうことができるような活動を計画・実施している。目標達成のために、継続していく必要がある。3つの適応指導教室の連携を図り、合同の体験教室等を継続し、集団性やコミュニケーション力を高めていく必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																						